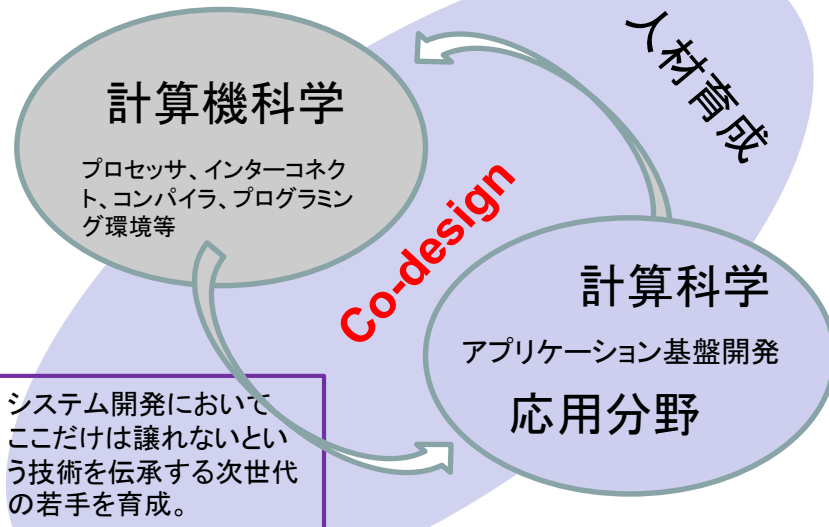


# 人材育成

人材育成については、「京」の開発・整備等を通して、以下のとおり数々のノウハウや技術が蓄積されるとともに、そうしたノウハウや関連技術を有する人材が育成された。フラッグシップ2020プロジェクトにおいても、プロジェクトを通して同様の人材育成の効果が期待できる。「京」の完成後実施してきた**研修生の受け入れ（インターンシップ）**や**スクール・講習会**をポスト「京」についても引き続き実施するとともに、**HPCIを基盤とした大学との教育・人材育成の連携、国際共同研究プロジェクトにおける若手研究者交流**において、積極的に若手研究者・学生を活用することで、計算科学・計算機科学の最先端研究を牽引する人材育成に貢献する。

本プロジェクトにおいては、プロセッサ等の中核となる技術について、Co-designの観点から、ハードウェアの開発とアプリケーションの開発を密接に連携して進めることで、計算機科学分野と計算科学分野の双方あるいは計算科学分野と応用分野の双方に精通する人材の育成も期待できる。



- Co-designによって複数の領域に精通することにより、高度な問題解決・コンサルティング能力を習得。
- 開発を通じた人的ネットワークの構築。

1. AICSインターンシップ：大学院生を対象として、実習・体験により将来の最先端の計算科学研究開発の担い手を育成。
2. スクール・講習会：スパコンを駆使して新しい課題に挑戦したいと考えている大学院生・若手研究者等を育成。
3. HPC国際ナショナルサマースクール（米国及び欧州のHPC機関と共同開催）による若手海外交流支援
4. 国際共同研究プロジェクトにおける若手派遣・研究者交流
5. e-learningアーカイブ：計算科学と高性能計算のためのe-learningアーカイブの公開を準備中。

## 各階層における人材育成の取り組み

- ハードウェア設計：主に、開発企業において、若手を積極的に参画させ、システム開発技術を維持・継承。
- システムソフトウェア：開発企業、およびAICSにおけるインターンシップ、およびポストドク研究員での雇用による養成。
- Co-designとアプリケーション開発：AICSにおけるインターンシップ、およびポストドク研究員での雇用による養成。大学連携、国際連携を積極的に活用
- ユーザーサポート・運用：若手の登用。大学センターとの連携も検討  
ユーザの高度なニーズに応える問題解決・コンサルティング能力の習得。